

小山市立博物館

博物館だより

2012  
3.15

54

第59回 企画展

# 思川流域の古墳

平成24年4月21日(土)～6月24日(日)

小山市の古墳の多くは、思川の流域に残されています。川筋の最初の古墳は、利根川本流付近の群馬県板倉町の赤城山古墳です。三角縁仏獣鏡が出土したことから、4世紀後半に築かれたと考えられています。その後5世紀後半頃から思川流域の広い範囲にいくつかの古墳が造られるようになり、やがて古墳群を形成していきます。

6世紀前半になると、思川と姿川の合流付近に、県内最大級の前方後円墳である摩利支天塚古墳や琵琶塚古墳が造られます。これを契機とするように、思川の上流に向かって大きな前方後円墳が7世紀になるまで造られ続けます。

今回の展示では、思川流域に造られた古墳を紹介し古墳文化の流入を考えるとともに、墳形・副葬品などを展示することにより、古墳群の形成を探る契機としたいと考えています。

記念講演会

「古墳の形とモノがかたるもの」

平成24年6月10日(日)

13:30～ 博物館視聴覚室

講師 小森 哲也 氏(栃木県考古学会会員)

申込み 電話(0285-45-5331)にて

入館料 大人200(100)円・高大生100(50)円・小中生無料 ※括弧内は団体料金

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 4/23(月)27(金)、5/7(月)14(月)21(月)25(金)28(月)、  
6/4(月)11(金)18(月)22(金)

## 「本場結城紬」展を終えて

昨年11月16日に「本場結城紬」がユネスコ世界無形文化遺産に登録され、1周年を経過したことを機に、本市の誇る伝統工芸である結城紬への理解と関心を深めていただくことを目的にこの展示会を開催しました。結城紬は鬼怒川流域を中心とした地域で生産されている伝統的な絹織物で、糸つむぎから機織りに至るまでのすべての工程において、手作業による伝統技法が守られています。展示では、その生産工程で使用されてきた道具の数々の他、栃木県紬織物技術支援センター、(財)重要無形文化財結城紬技術保存会のご協力をいただき、伝統的な紬の着物や反物の他、現代の製品についても紹介しました。

また伝統工芸師に認定されている地元生産者のご協力をいただき、紬生産工程の重要部分である真綿からの糸紡ぎと機織りの体験を、多くの来館者の皆様に行っていただくことにより、その歴史や伝統に理解を深めていただきました。

展示期間：平成23年11月16日(水)～12月18日(日)

入館者数：3,034名



機織り体験の様子

たくさんの方にご協力いただきました

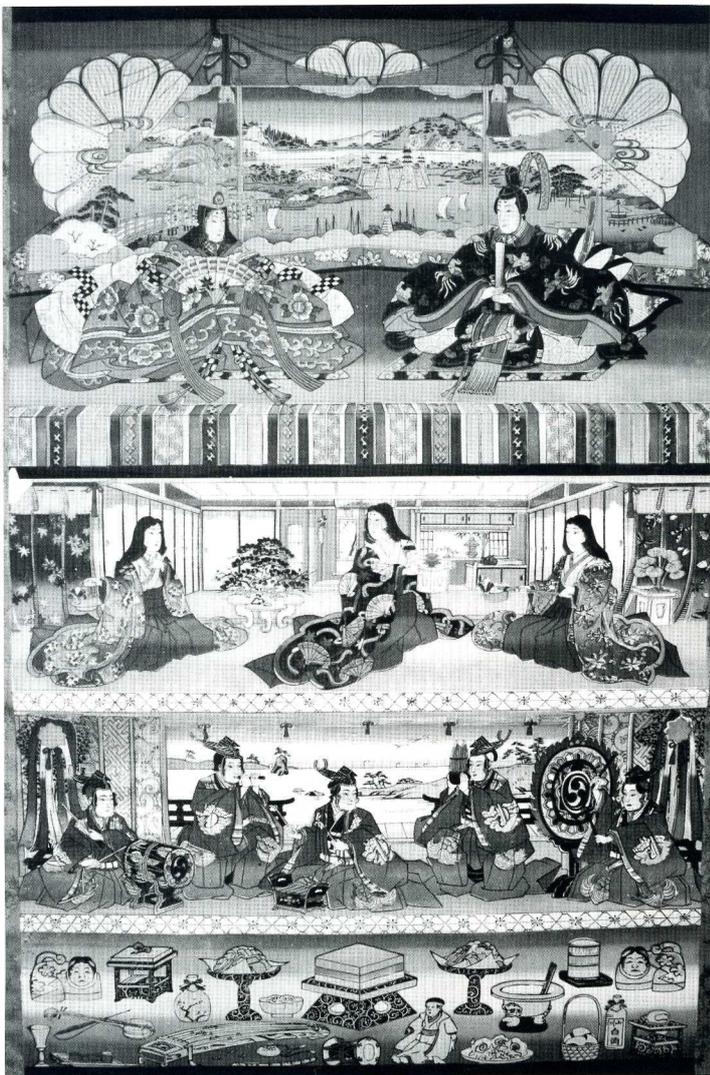
## 後期講座 「昔の暮らし体験」



1月21日(土)に後期講座「昔の暮らし体験」を実施しました。まずはご飯の準備からスタート。杵で計ってから米を研ぎ、青菜とねぎを刻んでいつでも火にかけられるように準備しました。次は洗濯。灰の灰汁を洗剤に、慣れない手つきで洗濯板に挑み、それが終わると「火のし」「炭火アイロン」を使っただのアイロンがけにも挑戦しました。そして昼食は釜で炊いたご飯。「火吹き竹」を使って火加減を調節しながら炊き上げていきます。慎重になりすぎてしまったせいか、期待していたほどおこげはできませんでしたが、ふっくらとおいしいご飯が炊き上がりました。おかずは味噌汁と漬物という質素なものでしたが、自分で炊いたご飯に参加した子どもたちも大変満足している様子でした。

冷たい雨の降る寒い日でしたが、電気にガス、水道も無かった時代の暮らしを体験し、そこにある、昔の人たちの知恵や工夫に触れることができた貴重な体験となりました。

ひな じく  
雛 軸 (大正～昭和初期)



この写真は、雛人形の代わりに、もしくは人形と一緒に飾った「雛軸」と呼ばれる掛軸(本紙部分)です。この資料のような雛軸は明治から昭和初期にかけて大量に印刷され、昭和20年代頃まで広く普及していました。カラーにできなかったのが大変残念なのですが、実際には近代独特の合成絵具が色鮮やかで、目を引きます。

この資料の内裏は男雛が右側という、いわゆる古式の配置が採用されています。よく見ると奥行きもあって、内裏様と五人囃子の背景には湾や海のような水辺が広がっています。また最下段の供え物には定番の白酒や三色の菱餅、幼児の顔をした犬宮(いぬばこ)などが並んでいます。江戸時代までの菱餅は緑と白の二色が普通なので、図案が近代以降のものであることも分ります。

特に希少な資料というわけではなく、軸装部分の痛みも激しいのですが、この時期にはちょっと出してみたくなる資料です。

(小野塚イツ子氏 寄贈)

コラム 博物館職員雑記帳

博物館 夜のお仕事 —愛おしい自販機のぬくもり—

学芸員 山田 淳子

博物館では月に1度、夜のお勤めがあります。

移動式天体望遠鏡車「ほっしー★OYAMA号」による、夜の定例観望会があるからです。

私をはじめ、星に関して全く役に立たない歴史系学芸員は、毎回駐車場係に徹します。赤く点滅する誘導棒を慣れぬ手つきで振りながら、走ってくる車にハイビームで嫌というほど照らされ、警察の取り締まりと間違えた腹いせに怒られ、寒風の中で耐えに耐えるという過酷な業務です。

寒さにめっぽう弱い若手学芸員は某衣料メーカーのオートテックを3枚も重ね着、(効果倍増?)動きがぎこちなくなるほどのもこもこ状態。でもどんなに着込んでも、靴下重ねても、靴用カイロ入れても、なぜか足裏から深々と冷える冷える。曇ってる日は気持ち温かいのですが、曇ってる日と星が見えない!このジレンマ。。

それでも、来て下さったお客さんが楽しそうに帰っていく姿を見ると、寒さに耐える甲斐もあったというものです。だからまた来月もがんばるのです!

# 季節の一枚 「雪の瓦窯跡」

かわらかまあと

今シーズンの冬は、日本全体に厳しい寒さと雪をもたらしました。関東地方では、乾燥と冷たい西風の日が続きまして、農作物への影響も大きかったようです。

そんな中、うるう年の2月29日、低気圧の通過に伴い、小山市周辺でも久しぶりの大雪に見舞われ、博物館に隣接する国指定史跡の「乙女不動原瓦窯跡」も、すっぽりと雪化粧しました。春には「山下通り」の桜並木が美しく開花して、おおぜいの市民が見学を訪れ、小山市内の小学6年生が歴史を学ぶ史跡も、今はひっそりと、その日を待っているかのようです。



第2土曜日 生井公民館で実施中!

## 平成24年度 前期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場において太陽の観測を行い、夜は生井公民館において季節ごとに見られる星座などの紹介をしながら星の観測を行います。

前期の観望会では、環があることで有名な土星の観測を中心に観測を行いたいと考えています。博物館の観望会への参加はもちろん、天気がよければご家庭でも夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。

また、今年は『金星づくしの年』です。5/21(月)の「金環日食」、6/6(水)の「金星の太陽面通過」、8/14(火)の「金星食」と、金星が関わる見逃せない天体ショーが目白押しです。それぞれの現象が起こる時間帯などの都合上、当館では6/6(水)に起こる「金星の太陽面通過」のみ実施する予定です。このチャンスを見逃すと、次回は105年後となる現象ですので、平日ではありますが、当日ご都合がつく方はぜひ当館にお越しください。

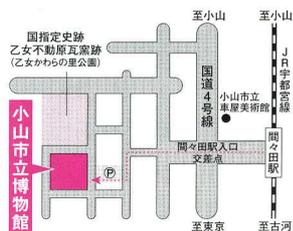


### 寄贈者芳名(平成22年7月~2月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ◆小池 保(小山市) チョウハツクエ
- ◆倉持治夫(小山市) 砲弾
- 銅製洗面器
- ◆鈴木宏和(小山市) 昆虫標本
- 稲荷神社旗 他
- ◆山中隆寛(小山市) 昆虫標本

## 博物館友の会 会員募集中!!



発行年月日 平成24年3月15日  
 発行 小山市立博物館  
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)  
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247  
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/index.html>  
 印刷 株式会社ダイサン小山